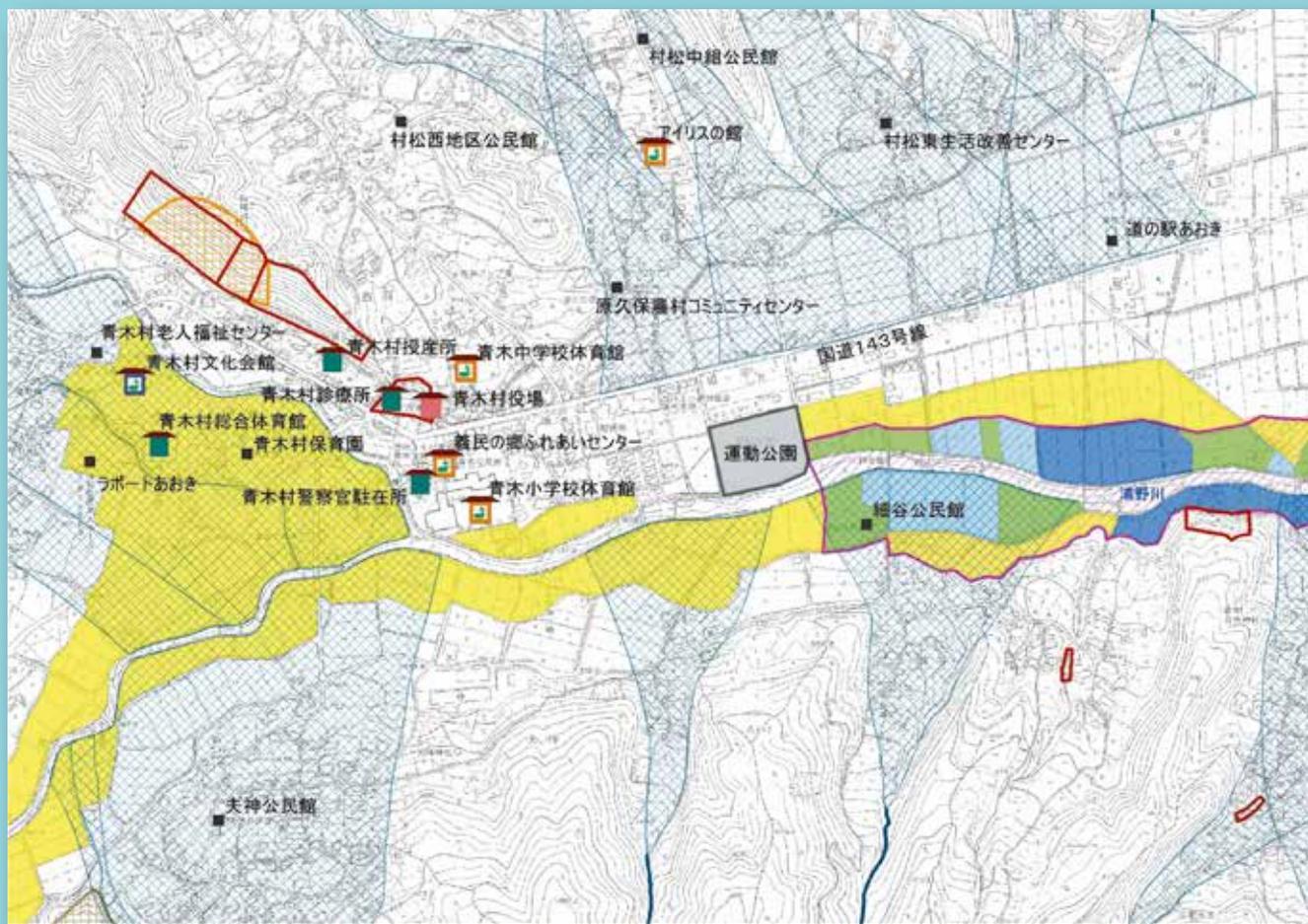


青木村洪水ハザードマップ

もしも「浦野川」が氾濫したら、あなたはどうしますか？



この冊子につけられた「洪水ハザードマップ(洪水避難地図)」は、浦野川がはん濫した場合の状況と、その時にあなたがどこに避難すればよいかを示した地図です。いざという時のために、このマップを見やすい場所に貼っておきましょう。

青木村洪水ハザードマップについて

この地図は、浦野川・沓掛川・田沢湯川が大雨によって増水し、はん濫した場合の浸水予想結果に基づいて、浸水する範囲と浸水の深さ、土砂災害危険箇所、および村内の指定避難場所などを示したものです。

大雨のときには、雨の降り方、河川や裏山の状況などに注意し、危険を感じたら早めに自主的に避難するよう心がけましょう。

また、水害の恐れがあるときは、状況に応じて村は避難準備、避難勧告、避難指示の呼びかけを行いますので、その際はすみやかに避難してください。

いざという時に備えて、あなたの家の浸水の可能性や避難場所、避難の道すじ、家族との連絡方法を確認しておきましょう。

なお、地図に着色して示した浸水区域および土砂災害危険箇所以外のところでも、状況によっては被害が生じることがありますので、注意してください。

平成19年7月 青木村長

洪水の想定条件

この洪水ハザードマップ(洪水避難地図)において、浦野川がはん濫して洪水が発生すると考えられるのは、次のような条件のときです。

洪水が発生するおそれのある大雨の規模は

100年に1回あると思われる降雨で、24時間の雨量を170mmと想定しています。

この地図では、浸水予測計算(平成15年度長野県実施)の結果に基づいて、想定した大雨により浸水が予測される範囲と、そのときの最も深い水深を図に示しています。

なお、この地図に示した浸水する範囲とその深さは、長野県が管理する河川の区域でのはん濫を想定したもので次のことを考慮していません。

- ① 合流するその他の小河川、水路によるはん濫
- ② 内水(河川に排水できずにはん濫した水)によるはん濫

このため、この地図に示した区域以外の場所が浸水したり、実際の深さが異なる場合がありますので注意してください。

■このマップを見るとき！！

浦野川では昭和63年8月9日からの豪雨により36棟の床下浸水被害がありました。

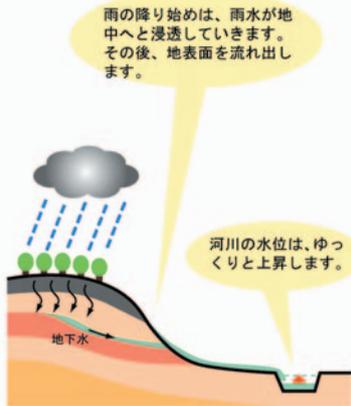
雨の降り方や土地の状況、小河川の氾濫などによって、マップに図示した以外の地区でもはん濫により浸水することがあります。日頃から家の周りや、大雨が降ったときの河川や裏山などの様子に注意し、危険を感じたら早めに避難しましょう。

また、大雨のときには、がけ崩れや土石流などの土砂災害が発生するおそれもありますので、注意が必要です。

このマップでは、浦野川によるはん濫を村内のみ表示していますが隣接する上田市でもはん濫する可能性があります。注意しましょう。

洪水発生メカニズム

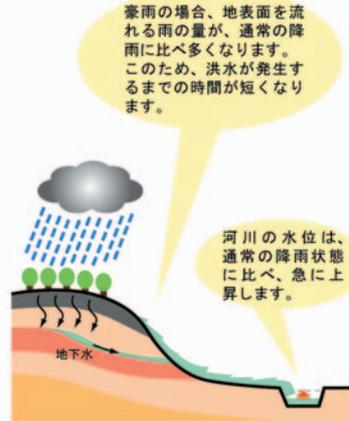
雨の降り始めの状態で見ると、地表面へと降った雨は、地中へと浸透していきます。その後、地表面が飽和した状態になると、雨は地表面を流れ出します。なお、雨が地表を流れ出すまでの時間は、地表がどれだけ水分を含んでいるかによって変わります。また、河川の水位は、ゆっくりと上昇します。



長雨による洪水の発生過程

短時間に集中的に降る雨による洪水の発生過程は、通常の降雨状態と様相が異なります。

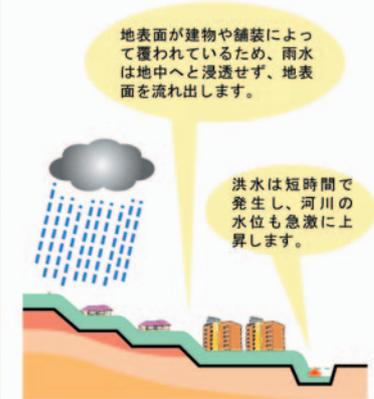
豪雨時には、地中へ浸透する雨の量よりも地表面を流れる雨の方が多いため、通常の降雨状態に比べて、洪水が発生するまでの時間が短くなります。また、河川水位も急に上昇する傾向にあります。



集中豪雨による洪水の発生過程

流域の状況が人工的に変化すると、洪水の様子にも大きな影響を与えます。例えば、森林や水田が宅地が変わったり、地表面が建物や舗装によって覆われることによって、雨水の地中への浸透がなくなったりするため、降った雨のほとんどが短時間で川に達します。

また、河川の水位は、急に上昇する傾向にあります。



都市部による洪水の発生過程

土砂災害は前兆現象にも注意を！

長雨や大雨、または地震が発生したときなどに、次のような現象を確認したら、早めに避難し、公共の防災機関に通報しましょう。

かけ崩れ

- がけからの水がにこる。
- 地下水やわき水が止まる。
- 斜面のひび割れ、変形がある。
- 小石が落ちてくる。
- がけから音がする。
- 異様なにおいがする。



雨や雪どけ水、地震などの影響によって、急激に斜面が崩れ落ちる現象。



かけ崩れ

土石流

- 山鳴りがする。
- 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。
- 川の水がにごったり、流木が混ざる。



山や川の石や土砂が、大雨などにより水と一緒に激しく流れ下る現象。



土石流

地すべり

- 地面にひび割れができる。
- 井戸や沢の水がにごる。
- がけや斜面から水がらき出す。
- 家やよう壁に亀裂が入る。
- 家やよう壁、樹木、電柱が傾く。



雨や雪どけ水が地下にしみこみ、断続的に斜面が滑り出す現象。



地すべり

避難の判断(タイミング)

洪水が発生しそうなときは、役場や消防などから避難の呼びかけを行います。
しかし、避難するタイミングをつかんで**実際に行動するのは、あくまでもあなた自身です。**
“**あぶない**”と感じたら、自分からすすんで避難することが大切です。

■雨の降り方の程度

※特に、1時間30mm以上、連続100mm以上の雨が降るときには、注意が必要です。

(発表される気象情報) (1時間雨量)	大雨洪水注意報 (30mm以上)	大雨洪水警報 (50mm以上)	記録的短時間 大雨情報 (100mm以上)
			
やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨
1時間に 10mm以上～ 20mm未満	1時間に 20mm以上～ 30mm未満	1時間に 30mm以上～ 50mm未満	1時間に 50mm以上～ 80mm未満
ザーザーと降ります。 地面からはね返りで 足元がぬれます。 この程度の雨でも長く 続く時は注意が必要 です。	どしゃ降りです。 傘をさしていても ぬれます。 側溝や下水、小さな 川があふれ、小規模 のがけ崩れが始まり ます。	バケツをひっくり返 したように降ります。 道路が川のように なります。 山崩れ・がけ崩れが 起きやすくなり、 危険地帯では避難 の準備が必要です。	滝のように降ります。 水しぶきで、あたり 一面が白っぽくなり、 視界が悪くなります。 土石流が起こりやすく 多くの災害が発生 します。
			息苦しくなるような 圧迫感があり、恐怖を 感じます。 雨による大規模な 災害の発生する恐れが 強く、厳重な警戒が 必要です。

※「記録的短時間大雨情報」とは、数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を
観測したときに气象台から発表されます。



気象予報の種類と発表基準

長野地方气象台が発表する**上田地方の警報**には次のようなものがあり、以下の基準で発表されます。

種類		発表基準		
警報	大雨警報	大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予想された場合、 具体的には次の条件に該当する場合		
		24時間降雨量	3時間雨量	1時間雨量
		110mm以上	60mm以上	40mm以上、 総雨量80mm以上
	洪水警報	洪水によって重大な災害が起こるおそれがあると予想された場合、 具体的には次の条件に該当する場合		
	24時間降雨量			
	110mm以上			

避難するときの心得

- 大雨洪水注意報が出されたら、テレビやラジオなどの情報に注意するとともに、必要な持出品をもう一度確認するなど、**すぐに避難できる準備**をしましょう。また、停電や断水する前に、あらかじめ水をためたり、おにぎりを作っておきましょう。

- 何よりも人命が第一です。**
“**あぶない**”と感じたら、浸水が始まらないうちに、**自分からすすんで**避難しましょう。村の避難所に自主的に避難するときは、事前に避難所が開いているかどうかを確認してから避難しましょう。

- 雨の中を子供やお年寄りなどを連れて歩いて避難するときは、**通常の2倍の時間**がかかると言われていいますので、**避難所へは早めに**避難しましょう。

- 障害のある方やお年寄り、子供、妊婦さん**など避難に時間や手助けが必要な方を**優先的に**避難させるように、みんなで**協力して**避難の援助をしましょう。



- 避難するときは、隣近所に**声をかけ合い**、みんなで避難しましょう。

- 自動車での避難はやめましょう。交通渋滞や事故をまねき、救急車両などの通行のさまたげにもなります。



- 避難するときは、溝や水路のある道路を避け、なるべく**高い道路**を選びましょう。やむをえず、浸水した道路を利用するときは、長い棒などで足元を確認しながら避難しましょう。

- 大雨や長雨のときには、山崩れやがけ崩れも起こりやすい状況になっていますので、避難するときには、**土砂災害にも注意**しましょう。

- 浸水して水の深さが腰まできたら**無理は禁物**です。ひとまず、近くの高台やじょうぶな高い建物などに避難しましょう。

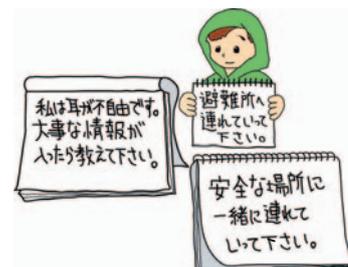


障害のある方やお年寄りのみなさんは

- 台風がきそうなときや、大雨が降りそうなときは、テレビやラジオ、防災メールなどによる情報に早くから注意しましょう。
目や耳が不自由な方で情報がとりにくい方は、ご近所に様子をたずねてみましょう。

- 目の不自由な方や車いすで避難される方は、移動に時間がかかりますので、早めに救援を頼み、自分からすすんで避難しましょう。
高齢の方で、歩けないときや歩けなくなったときは、早めに救援を頼みましょう。

- 目や耳が不自由な方は、避難するときには、自分からすすんで目や耳が不自由なことを周囲にアピールし、具体的にどういうお手伝いが必要なのかを伝えましょう。
たとえば、「緊急会話カード」を、あらかじめ作って持っておくとよいでしょう。



水害に備えて

- 地域ぐるみで自主防災組織をつくりましょう。

洪水はもちろん、台風や地震などの災害や火事などによる被害を最小限に食い止め、安全な避難を実現するには、地域ぐるみの防災対策がもっとも有効です。

自主防災組織をつくったり、村の避難場所に避難する余裕がないときなどに備えて、近くの安全な場所にある自治会集会所などを地域の一時的な避難場所として決めておきましょう。

- 長野県防災メール配信サービスに登録しましょう。

県では、防災情報や災害情報をみなさんに直接伝える手段として、携帯電話やパソコンへのメール配信サービスによる情報提供サービスを行っています。
特に、携帯電話は、停電したときにも有効ですので、ぜひ登録してください。

- 長野県防災メール配信サービスの申し込みと雨量情報は以下のサイトから

<http://133.105.11.45/index.html>



情報の入手先

長野県の防災情報はWEBSITE信州（インターネット）で、河川の水位情報や雨量情報などが入手できます。

日頃から防災の意識を高め、防災に関する情報の収集に心がけましょう。



情報の入手先

長野県の防災情報

（県内の災害情報）

<http://www.pref.nagano.jp/kikikan/saigai.htm>

（河川の水位情報）

<http://www.pref.nagano.jp/doboku/kasen/suii/suiijyouhou.htm>

（雨量情報・砂防情報）

<http://133.105.11.45/index.html>

（メール配信サービスの申し込み）

<http://133.105.11.45/index.html> から

気象庁ホームページ

<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

国土交通省 防災情報提供センター

<http://www.bosaijoho.go.jp/>

国土交通省 川の防災情報

<http://www.river.go.jp/>

<http://i.river.go.jp/>（モバイル版）

内閣府防災担当のホームページ

<http://www.bousai.go.jp/>

NTT災害用伝言ダイヤル「171」

～ 局番なし 171 ～

- 災害用伝言ダイヤル「171」は、大規模な災害が発生したときなどに、被災地やそのほかの地域の方々との「声の伝言板」です。
- 被災地の方が録音した安否などに関する情報を他の地域の方がお聞きいただけるほか、他の地域の方から被災地の方へメッセージを送ることもできます。
- ご利用方法は、「171」をダイヤルし、利用ガイダンスに従って伝言の録音・再生を行ってください。

◆ご利用できる電話

災害用伝言ダイヤルがご利用可能な電話は、加入電話・公衆電話・携帯電話・ひかり電話および、災害時にNTTが避難所などに設置する特設公衆電話になります。

伝言録音時間	1 伝言あたり30秒以内
伝言保存期間	録音してから48時間
伝言蓄積数	電話番号あたり1～10伝言

◆NTT東日本 災害用伝言ダイヤル

インターネット情報（アドレス）

<http://www.ntt-east.co.jp/dengon>

<http://www.ntt-east.co.jp/dengon>

[mobile/index.html](http://www.ntt-east.co.jp/dengon/mobile/index.html)（携帯端末）

わが家の避難地図のつくり方！

- ①地図のコピーをはって、「わが家」から「避難場所」までの安全な経路を書き込みましょう。
- ②避難する際に、避難経路上で注意すべき場所を書き込みましょう。

避難経路を選ぶポイント！ 次のような場所は危険です！

○浸水がよくおこる場所！

○がけ崩れがおきそうな場所！

○水路やマンホールが多い道路！

わが家の避難地図



わが家の防災メモ

わが家の避難場所	
家族の集合場所 (避難場所では出会えなかった場合)	
避難するときの緊急連絡先	
非常持出品の置き場所	

家族の名前	生年月日	血液型	会社・学校などの連絡先

大災害で連絡がとれない場合は、

〔171〕NTT災害用伝言ダイヤル をご利用ください。

～あなたの声を録音すれば、全国どこからでも聞くことができます～
「災害用伝言ダイヤル」の詳しいご利用方法は、ハローページをご覧ください。

また、携帯電話の場合は、携帯電話各社の

災害用伝言板サービス をご利用ください。

●マップに関する問い合わせ先：

青木村 建設産業課

TEL(0268)49-0111/FAX(0268)49-3670

●浦野川河川管理に関する問い合わせ先：

長野県 上田建設事務所

TEL(0268)23-1260/FAX(0268)25-7163

発行 長野県青木村／平成19年7月作成